

# 第2回国立公園満喫プロジェクト有識者会議

## 議事次第

日時：平成28年6月27日（月）

13:00～15:00

場所：航空会館7階702+703会議室

### 1. 開会

### 2. 議事

(1) 国立公園満喫プロジェクトの実施について

(2) その他

### 3. 閉会

## 配付資料一覧

- 資料 1 有識者によるプレゼンテーション資料
- 資料 2 各国立公園の状況
- 資料 3 - 1 第 1 回有識者会議における主な意見（実施箇所の選定について）
- 資料 3 - 2 実施箇所の選定にあたっての考え方（素案）
- 参考資料 1 第 1 回国立公園満喫プロジェクト有識者会議での主なご意見
- 参考資料 2 第 1 回国立公園満喫プロジェクト有識者会議議事要旨
- 参考資料 3 各国立公園の状況（詳細）
- 参考資料 4 国内外先進事例
- 参考資料 5 各国の出国者数及び各国のアジア訪問者数
- 参考資料 6 最近のビザ緩和（一般旅券所持者）

国立公園満喫プロジェクト  
プレゼンテーション  
～選定の視点～

2016年6月27日（月）

有識者 石井至

（観光ビジョン構想会議委員・石井兄弟社）

## 1-1. 目標（お題）を正確に把握する

・「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標に、「国立公園満喫プロジェクト」として、まずは5カ所程度の国立公園において、**2020年までに訪日外国人を惹きつける取組を計画的、集中的に実施する**こととしています。

(環境省HPより)

## 1-2. 「観光ビジョン」は何を言っているか？

<問題点> 現在の国立公園は…

- 自然保護がメインであり、**観光への活用**が不十分
- 四季折々の豊かな自然を満喫する**体験メニュー**や**快適な滞在環境**が不足し、観光客にとっての魅力に欠ける

(「明日の日本を支える観光ビジョン」 施策集より)

## 1-3. 「観光ビジョン」は何を言っているか？

<目標>

- 2020年までに、外国人国立公園利用者数を年間430万人から1000万人に増やすことを目指す。

# 1-3. 「観光ビジョン」は何を言っているか？

< 今後の対応 = TODD 4点 >

## ① 自然満喫メニューの充実・支援

- ・ 自然や温泉を活かした **アクティビティの充実**
- ・ 質の高い **ガイドの育成**
- ・ **ビジターセンター**における民間ツアーデスクの設置
- ・ **入場料**の徴収 ・ 保護すべき区域と観光に活用する区域の  
明確化 等

## ②上質感のある滞在環境の創出

- **ビューポイント**を核とした優先改善
  - エリア内の**景観デザインの統一**、電線の地中化
  - 質の高い魅力的な宿泊施設等の民間施設誘致(コンセプションの活用など) 等
- ①②を実現するための条件 (**利用計画の柔軟な拡大の方向性を、この有識者会議ではっきりと打ち出すべし**)。今では、ホテルを国立公園内に建てるのも一苦勞、景観のためには、電線以前に**廃屋撤去**が必要。金銭面も特別扱い (**補助金の補助率アップ**等) すべし。



### ③ 海外への情報発信強化

→特にJNTOとの連携。

### ④ 観光資源の有効活用を目的とした関係省庁や関係自治体の一体的な取組の強化

→観光ショーケースの市にある国立公園、官民一体として要望を出してきた国立公園ところが対象。

## 2. 「5か所程度」の選定基準は どうすべきか？

上記1を踏まえて考えると…

- ① **数値目標を達成**することを意識  
→現時点で外国人訪問者数の多  
いところを1つは選ぶべき。

**富士箱根伊豆、支笏洞爺、中部山岳、阿蘇くじゅう、日光**

## ② 「観光ビジョン」の内容との連携

- 広域観光周遊ルートとの関係
- 東北復興（今では熊本も）

→東北と熊本は両方関係あり。

（東北：3つ。十和田八幡平、磐梯朝日、三陸復興）

### ③ 「観光ショーケース」

～釧路、金沢、長崎の3市

国立公園があるのは釧路市だけ (阿寒、釧路湿原)

④ 地元がやる気がないとうまくいかない。官民一体として要望を出してきたところから選ぶべき

### 3. 事務局へのお願い

- 現時点で、**官民一体**（県知事・市長だけでなく、観光協会（民間）も一緒に）**で環境省に要望を出してきている国立公園をリストアップ**してほしい。
- それらの国立公園から、前述の基準（訪問人数、広域・復興、ショーケース）を目安に選ぶべし。



# 国立公園満喫プロジェクト 国立公園を生まれ変わらせるプラン

江崎貴久

# 「国立公園を利用したい」 商業

- ・ 宿泊事業者
- ・ 飲食事業者
- ・ エコツアー事業者
- ・ 一次産業の人々

総論では、机上の空論となる

まずは、地元も地元外も、この人たちに  
具体的に自分が利用するなら、  
どう使うかをヒアリングすることから。  
そして、生み出す便益とリスクに対応する案を。



# 無人島たんけん プログラム

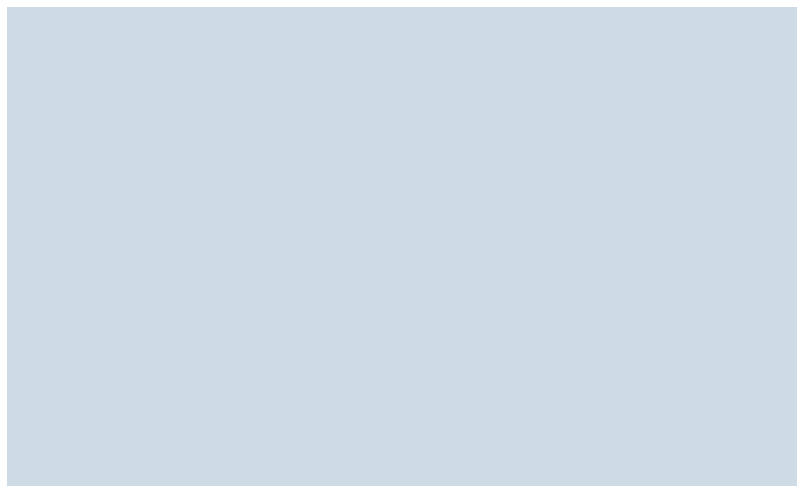
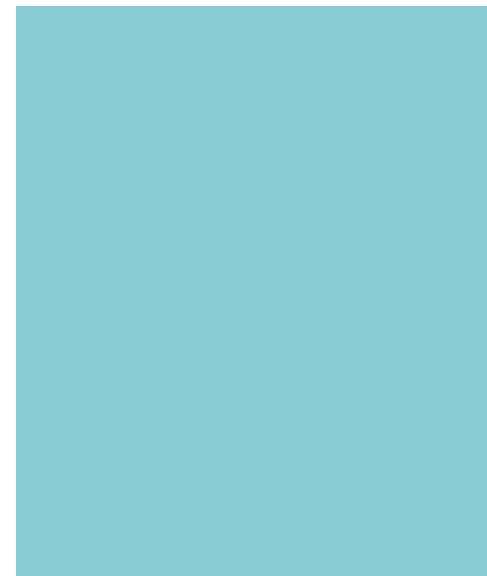
— 実例を踏まえて —

2004年～

答志島の無人島で磯観察  
のプログラムを実施。

保護のための活用事例

- 地元合意と
- 旅行会社 & 行政



# 無人島たんけんツアー — 実例を踏まえて —

- ・ 2004年 県・旅行エージェントから始まった事業
- ・ プロジェクトが始まっていたにもかかわらず、県は途中で「担当者不明」と手を引いた。

守るために受け入れた  
ルールの策定と利益の地域還元

最重要課題は「持続可能性」

離島振興と漁師からの言葉で、無人島ツアーは、手法を変更。  
島民が活用→負荷が大きくなるため、削減・中止  
シュノーケルに転換、30人→10人、エージェントは2年で去った。  
→法的規制では、遅い。監視の目と自主規制（民度）だから、対応が早い。

「愛着」は保全（保護・活用）に必要不可欠

エー  
ジェ  
ント

日本は  
自主管理  
自主規制  
の文化

海島遊民  
くらぶ

地元の産業・人々

# 漁場を荒らさないようするためのルール

- ① 持ち帰る貝殻・石は一人1つまでにする。
- ② ゴミを残さない →逆に清掃活動をし、持ち帰る。
- ③ フィールド管理:浮島上陸はガイドを除き、1日1回30人まで、  
長者が浜付近は1日1回40名まで
- ④ 同じ磯場に3日より多く続けて入らない。
- ⑤ 観察時の生き物採取に関して、1人1種1固体とし、観察後は  
生息条件にあわせて海へ返す。
- ⑥ 魚類や皮膚の薄い生き物については、素手では、触らない。
- ⑦ プラケースに入れる時間の制限をする。スタッフが管理する。
- ⑧ 棘皮動物・特にウニ・ナマコなどの鳥羽の食用となりうる水産  
資源については、海に返す際は、スタッフが、生き物がその後  
弱らないよう、その生息環境に合わせて海に返す。
- ⑨ 観察前に、お客様の意識付け・指導を必ずし、効果的なオリエ  
ンテーションを心がける。(島の背景・住民の人たちの大切な  
島・生き物のための観察時の注意など。)

漁民への配慮の  
ためのルール

自然を守るための  
ルール



地域に根付いている住民はどれか一つではなく、  
4者への愛着が、4者のバランスへの調整機能として働く



お客様

自然資源

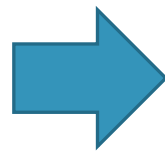
住民

観光事業者  
ガイド

# オーバーユースを想定したルール作り

- ・オーバーユースはなぜ起きる？ → 人気の観光資源、商売、地域事業
- ・何に配慮する？ → 自然破壊、地場産業への経営資源圧迫
- ・どうやってキャパを決める？ →
  - ・ 経験値に基づいた勘
  - ・ 幅を持たせる
  - ・ 決定基準はマーケティングと保護の両視点から。比重は、保護重視。安売りしないためにも。
- ・ 変化にいち早く、対応する。商品の差し止めと代替案の展開に備える。

エコツーリズム法  
全体構想・協議会  
の手法を活かす！



広まらない現実  
課題は、「三方良し」の  
メリットと目的が見えないこと

# 国立公園による受益と管理

地域に調整能力を活用

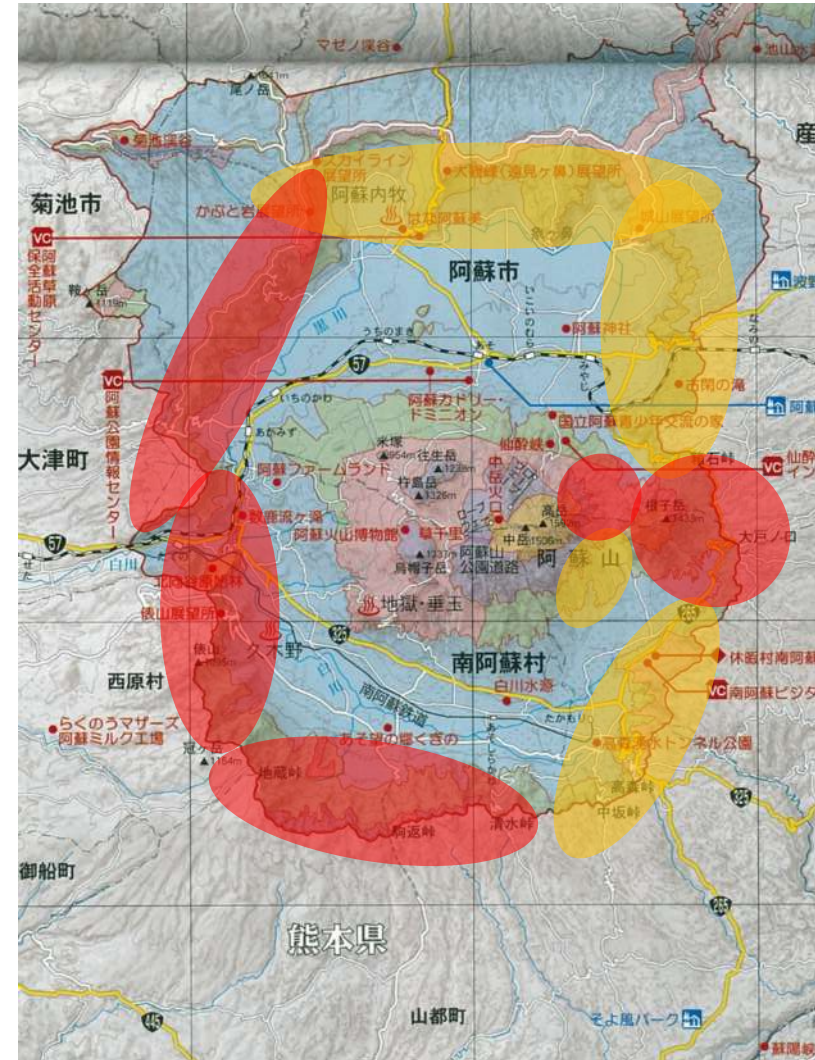


# 保護計画のゾーニングに利用計画のゾーニングを重ねる

- ・ 保護規制計画を参考にしながら、地の利や許容範囲を考慮して、利用方法のゾーニングマップ作成する。将来ビジョンに向け、地域でデザインする。

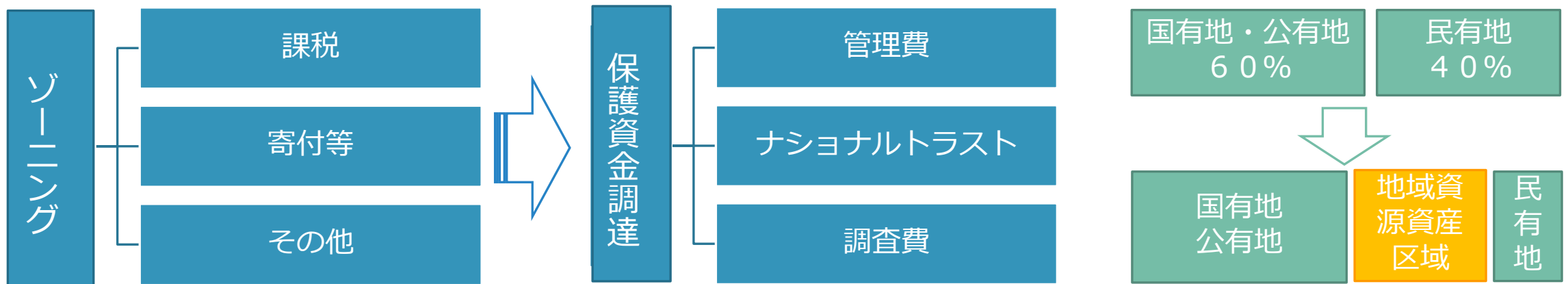
例えば...

- ...国立公園満喫利用ゾーン
- ...国立公園満喫対象ゾーン



# 保護の資金調達と管理体制づくり

- ・受け入れた商業に2種類のゾーニングによって比率を変えた利用税を課す。保護区域は価値が高いことから、そのメリットを受ける度合いが高く、受益者負担も受けるメリットにより段階をつける。
- ・国有地・公有地（県・市）・民有地の区別ではなく、将来的に、ナショナルトラストなどの手法を利用し地域の共同体として保有する土地所有を増加させ、コミュニティによって景観保護をする。トップダウンでの規制ではなく、地方における日本人の気質として愛着と地域コミュニティによる資源管理能力を活かす。そのための資金循環システムとして、活用する。





# 民間・商業の参画方法

宿泊・エコツアー・飲食などの商業で、単独の民間業者に任せるのではなく地域の多様な国民が参画できる仕組み。

国立公園の新たな活用によるメカニズムによって、地域に利潤の比率を増やしてこそ意味がある。地域人材を労働力としてのみ活用するのではなく、地域マネジメントを理解した経営者の育成の場とすることで、多くの利潤が地域内に残り「地域の資本」を増やすことになる。また、日本の自然資源の管理には、多くの一次産業が関わっているため、40～50人程度の雇用が生まれても、数千人の一次産業や他の商業を縮小させるのでは、意味がない。

EX) おかげ横町は、景観保全のためテナントではなく、委託事業として景観維持。しかし業績が良くない事業者は、打ち切り。周りも景観的に同調する。

**テナントではなく、直営。景観保全と事業継続にリスクを背負う。  
直営する主体の民度が問われる。最後まで責任をもつ主体**

# 活用と保護を二人三脚で。

・国立公園エリアでの観光は、エコツーリズムであることが必須。現在の国立公園の計画は、「保護規制計画」と「事業計画」。これを大枠で結びつけるものがない。保護と利用を並行して実施する「エコツーリズム計画」を入れる必要性。

・インバウンドを見据え、各国立公園に設置した「テーマ」をメッセージとして、保護・活用ともに柱に置く



## 第2回「国立公園満喫プロジェクト有識者会議」ご提案

2016年6月27日 野添ちかこ

国立公園におけるインバウンド誘致

キーポイントは…

宿泊施設

---

# 現状

日本文化・自然を求めて国立公園にやってくる外国人旅行者は  
滞在型の傾向が強い。

---

# 背景

高度経済成長以来、「1泊2食型」という旅行形態に慣らされている背景があるので、多くの宿で、客は翌朝10時か11時には帰ってしまうという感覚が根強く残り、その結果、ほとんどの宿で自然体験・アクティビティメニューなどは自館では用意していない。

## 事例1:「ランプの宿 高峰温泉」 (長野県・上信越高原国立公園)

冬季はスノーシュー、クロスカントリーツアー。

夏季は池の平、高峯、浅間山などへのハイキングを  
希望者に無料で行っている。

ガイドが野生の動物や植物などの説明を行い、  
スノーシューや手袋、上着、帽子なども無料貸し出し。

このほか、年間を通じて、星の観望会などが行われている。





## 事例2:「奥入瀬溪流ホテル」 (青森県・十和田八幡平国立公園)

300種類以上の苔が生息する奥入瀬溪流でルーペ片手に森を散策する「苔さんぽ」を実施。

「苔メン」がガイドをし、「苔ガール」なる造語も生まれた。

このほか、奥入瀬溪流ガイドウォーク、専門ガイド同行の溪流釣り、レンタサイクリング、滝ハイク、カヌーツアーなどを宿のアクティビティプランが満載で選ぶ楽しみもある。





### 事例3:「中房温泉」 (長野県・中部山岳国立公園)

90°C以上の高温の源泉が湧き出すため、  
敷地内に地熱地帯がある。

裏山の「焼山」では砂を掘って、じゃがいもや  
たまごなどの食材を埋め、天然蒸し料理体  
験ができる。

天然の岩盤浴「地熱浴場」では、夜は180°  
に近い星空、早朝には朝焼けを見ることが  
できる。



# 提案

## 国立公園を満喫するための 自然体験メニューを提供する宿への助成・表彰

国立公園内で、アクティビティや自然体験メニューを提供する宿泊施設に対して、何らかの優遇措置・助成する制度を行政主導で制度化する。  
(宿が参画する意義づけ)

①税制優遇 ②プログラムをつくるための助成制度 ③大臣表彰のアワード

●「国立公園満喫プロジェクトの宿」(仮)の選定

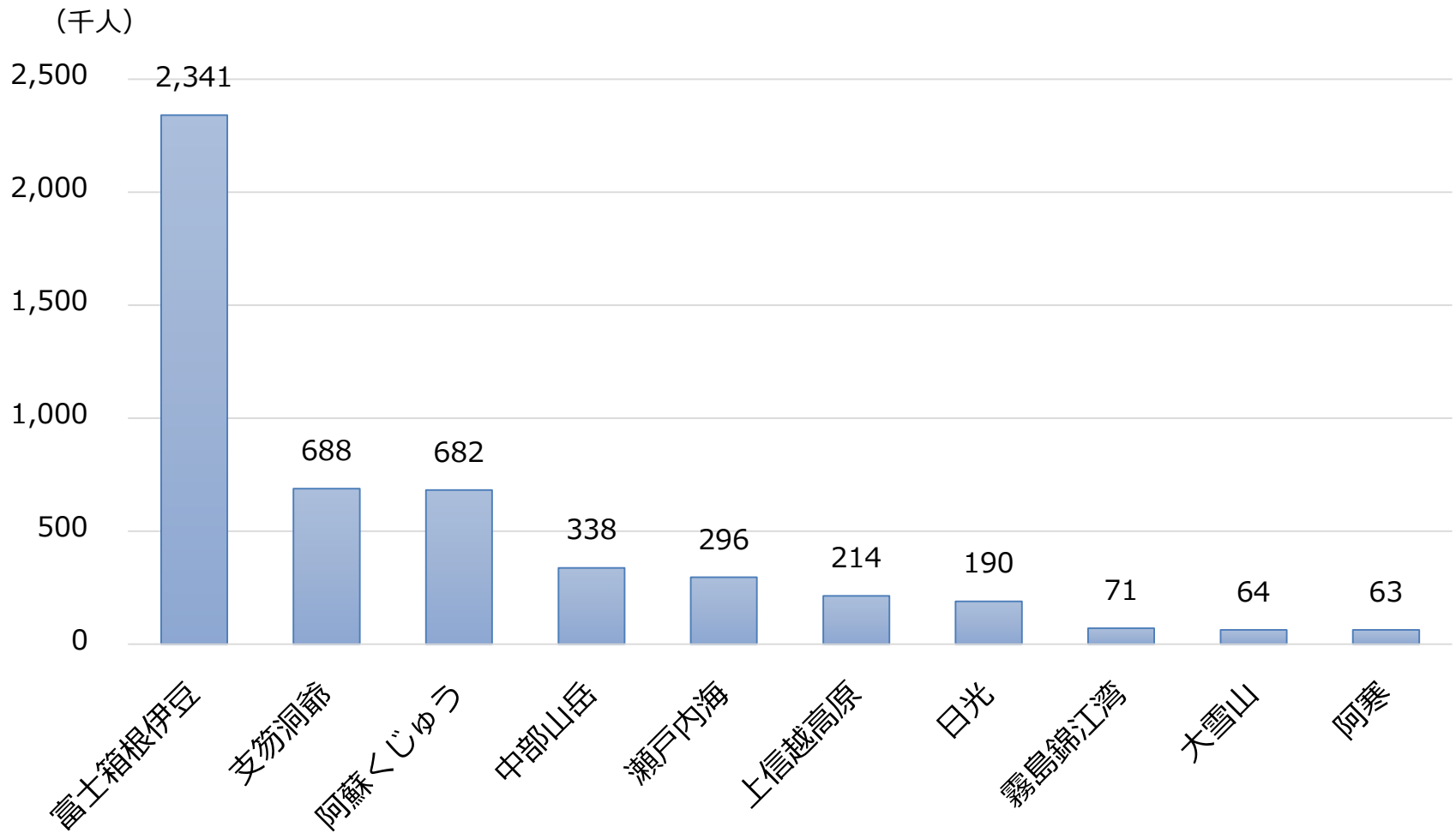
●宿で提案する面白いアクティビティに対しての表彰 など

《参考》「人に優しい地域の宿づくり賞」(厚生労働大臣表彰)・・・

高齢者や障害者を含む全ての人々が、安心して快適に楽しめる社会環境づくりに貢献した旅館を表彰

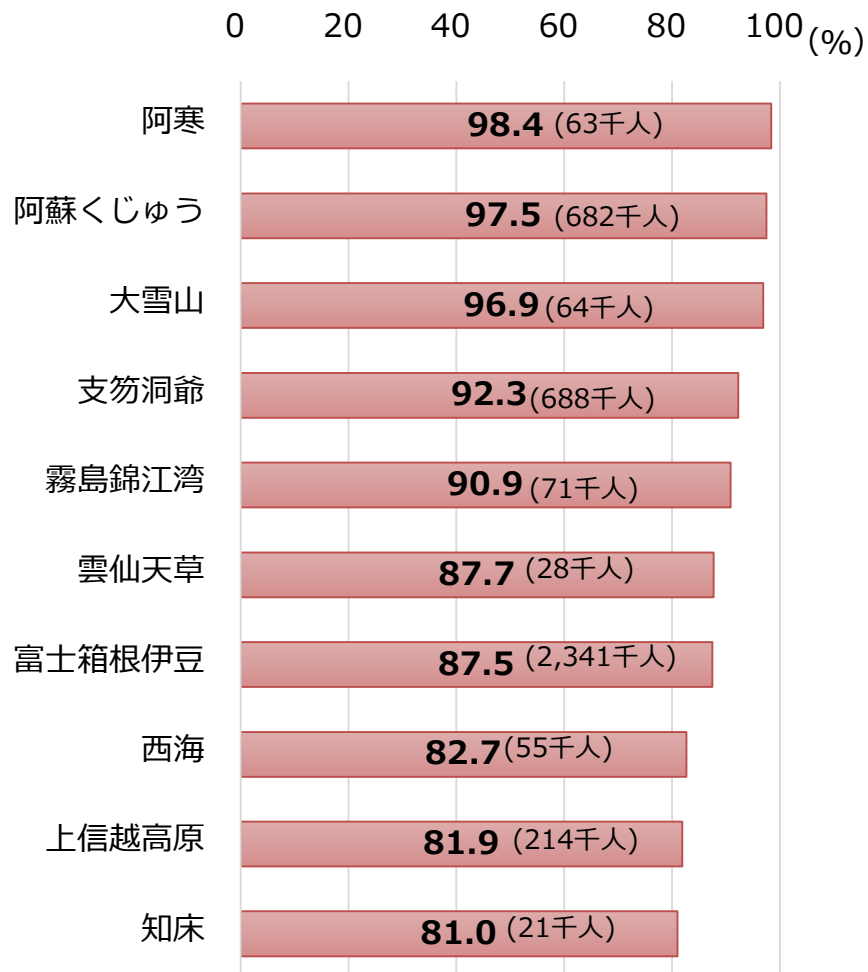
# 各国立公園の状況

# H27訪日外国人数

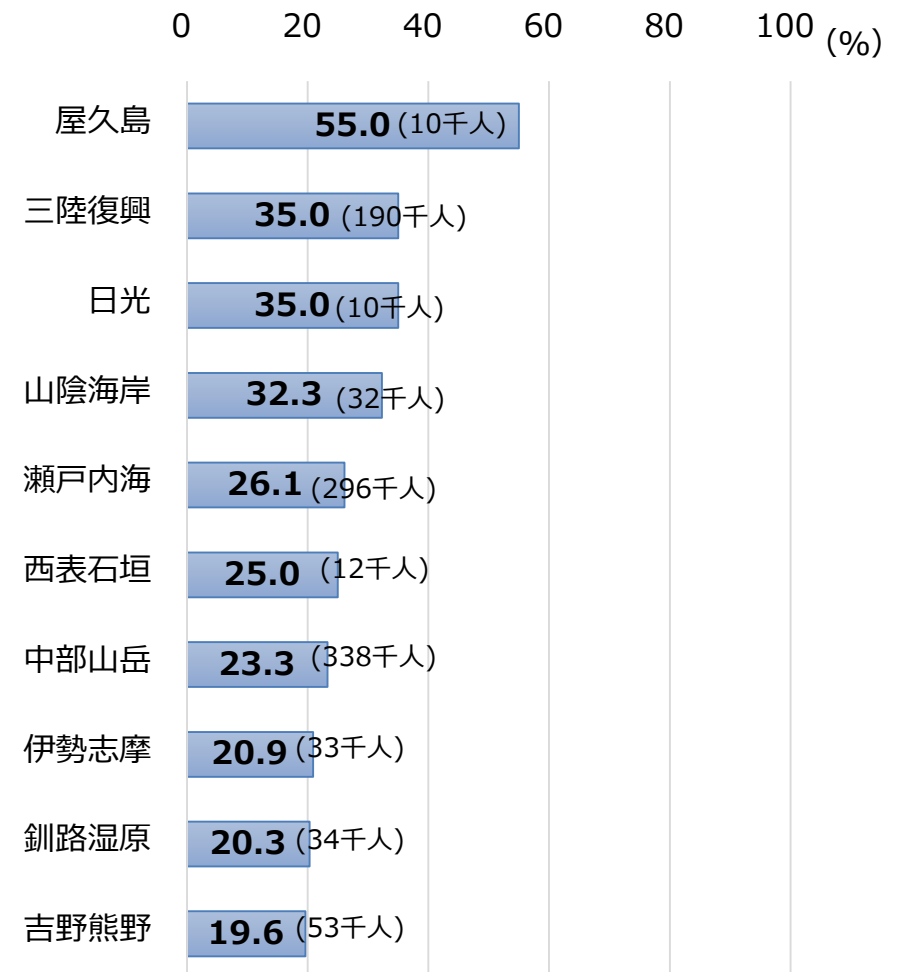


# 訪日外国人の地域内訳(アジア・欧米)

## アジア系



## 欧米系

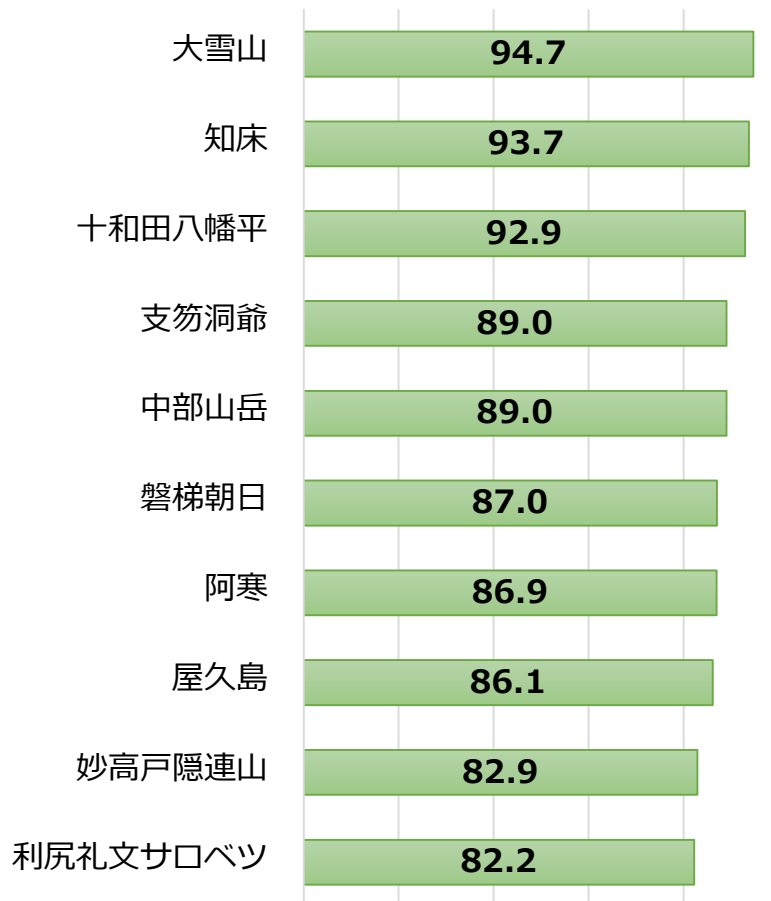


※ ( ) 内は、各公園のH27訪日外国人人数

# 土地所有形態内訳（国有地・私有地）

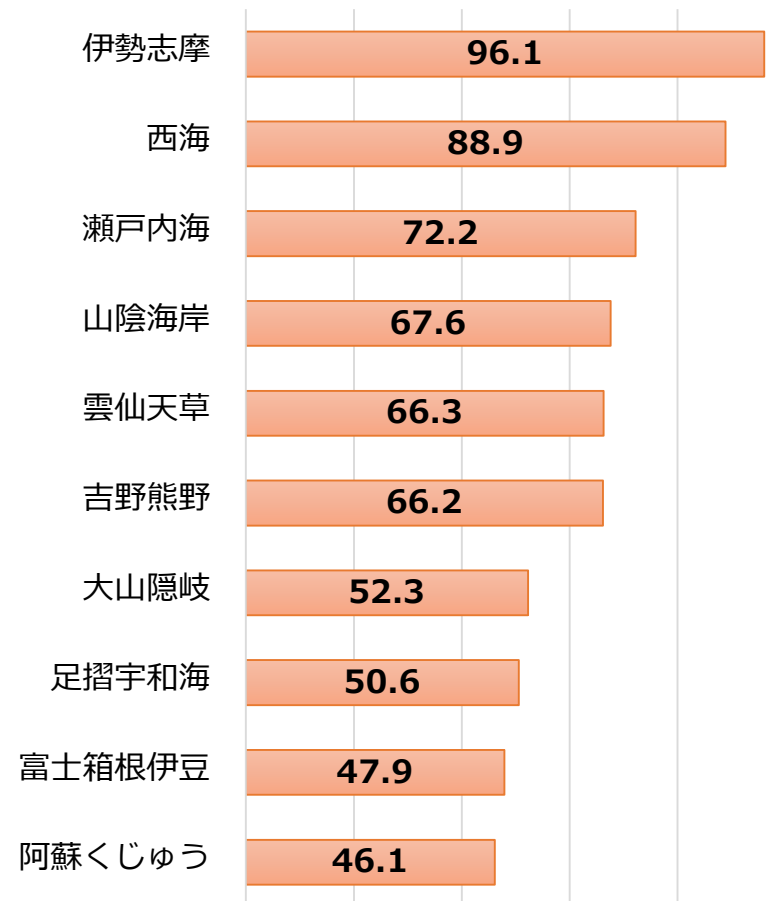
## 国有地

0 20 40 60 80 100(%)

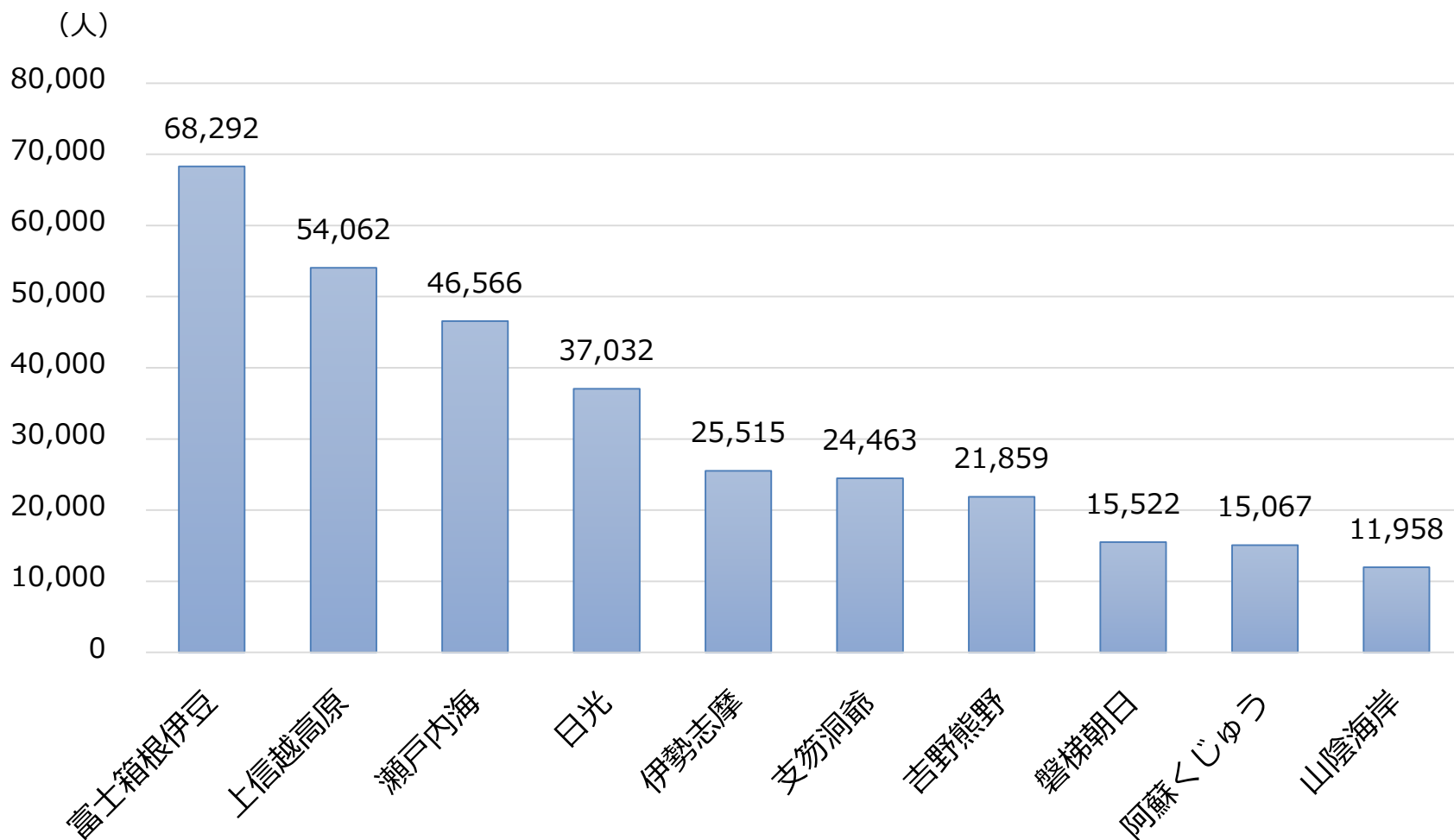


## 私有地

0 20 40 60 80 100(%)



# 宿泊容量



※国土数値情報 宿泊容量メッシュデータ (H22年度データ) より作成

# 関係省庁の取組等との連携

観光立国 ショーケース	エコツーリズム 全体構想	国民保養温泉地数	特A・A級観光資源【温泉】 出典：(公財)日本交通公社 「全国観光資源台帳」	世界遺産	日本遺産
釧路湿原	上信越高原	①中部山岳 (4か所)	①十和田八幡平 (5か所)	知床	①磐梯朝日 (2か所)
阿寒	小笠原	②支笏洞爺 (3か所)	②上信越高原 (4か所)	日光	①吉野熊野 (2か所)
	伊勢志摩	②十和田八幡平 (3か所)	③吉野熊野 (2か所)	小笠原	①瀬戸内海 (2か所)
	慶良間諸島	②日光 (3か所)	③霧島錦江湾 (2か所)	富士箱根伊豆	①大山隠岐 (2か所)
		②上信越高原 (3か所)		吉野熊野	①西海 (2か所)
				瀬戸内海	
				屋久島	



# 現在の国立公園に足りないもの

## ○情報

- ・いつ、どのようなことが楽しめるのか情報が得られない ※ロサンゼルス旅行博での来訪者意見（環境省 2014）
- ・日本に国立公園があることが認知されていない ※有識者ヒアリング（環境省 2013）
- ・どこから国立公園かわからない ※日本人向けアンケート（環境省 2013）
- ・展望地などへ行く道が迷いやすい

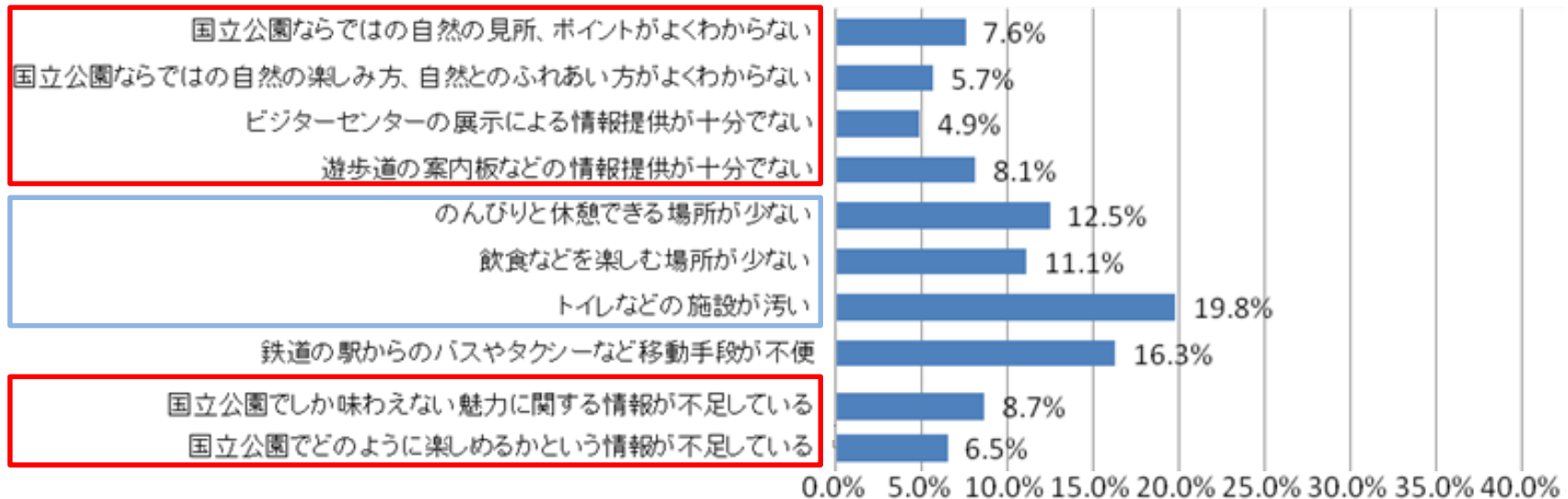
## ○施設

- ・景色のいいところで座るところがほとんどない ※国立公園満喫プロジェクト有識者会議委員意見
- ・トイレが汚い ※日本人向けアンケート（環境省 2013）

## ○体制・その他

- ・レンジャーに会ったことがない ※有識者意見、レンジャー議連
- ・国立公園とは思えない街並み（雑然として統一感がない、住宅街がある等）  
※国立公園満喫プロジェクト有識者会議委員意見

直近の国立公園への旅行で感じた不満（複数回答） ※上位10位のみを抜粋



# 国立公園満喫プロジェクトで新たに実施する事項

- ビューポイント（重点取組地域）における集中改善で国立公園としての魅力を向上
  - ・外国人も迷わず自然を満喫できる散策路、展望地（IT活用）、トイレの整備
  - ・滞在時間別のルート設定
  - ・ビジターセンターの利用者目線での改革（ツアーデスクの設置等）
  - ・まちなみ景観の改善
  - ・看板、標識類のデザイン統一
- 現地管理体制の充実
- 外国人向け体験ツアーの開発やガイド育成
- 観光庁・JNTOと連携した海外プロモーション

## 第1回有識者会議における主な意見（実施箇所の選定について）

### ■連携■

- 観光庁の取組との連携や観光ビジョンで取り上げている各種取組をフル活用
- 広域観光周遊ルートとの連携を考えるべき
- 省庁連携・日本版DMOも視野に

### ■地元体制■

- 地元が熱心なところを選定し成功事例をつくってはどうか
- 実際に動く人が熱意を持っていることが重要。組織体制も大事

### ■その他■

- 強いところを伸ばすという考え方
- 今は利用者数が落ちているがこれから育てていくべきという考え方（東北や九州）
- 日本のエコツーリズムの聖地といえる地域を選定
- 宿泊施設の充実、自然が広大である等のテーマで分けて選定することも有効

## 実施箇所の選定にあたっての考え方（素案）

### 国立公園満喫プロジェクト推進にあたっての基本的な考え方

- 本プロジェクトは最終的には全国32の国立公園で実施していくものであり、まずは「先導的モデル」となる国立公園を選定して集中的に対策を実施し、その成果を全国に展開することとしている。
- このため、選定にあたっては、「先導的モデル」としてふさわしい、資質（ポテンシャル）、地元の熱意やそれを支える仕組み（体制や担保措置）が揃っている国立公園を選定する。
- また、我が国の国立公園は多様な主体が協働して管理していることから、国（環境省、観光庁等）、都道府県、市町村等が協働して本プロジェクトを推進することが重要であり、都道府県、市町村においても、積極的な関与が期待される。